

チーム医療の実践

**～広島大学病院のエイズ診療における
多職種での取り組みを通して～**

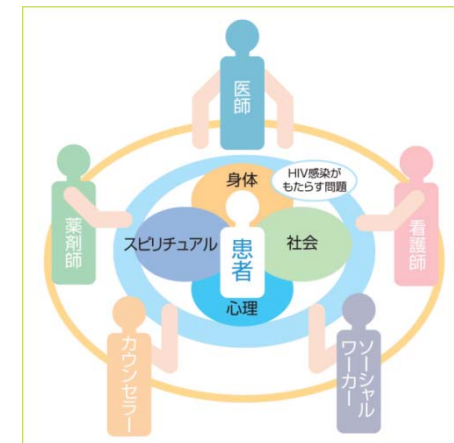
**広島大学病院 輸血部/エイズ医療対策室
齊藤誠司**

エイズと言えばチーム医療

- HIV感染症は疾患による身体や身体機能への影響に留まらず、心理状態や社会生活にも、その影響は及ぶ。
- 適切な支援を各スタッフが専門に応じて役割を分担し、連携を取りながらチームでケアを提供することが重要。

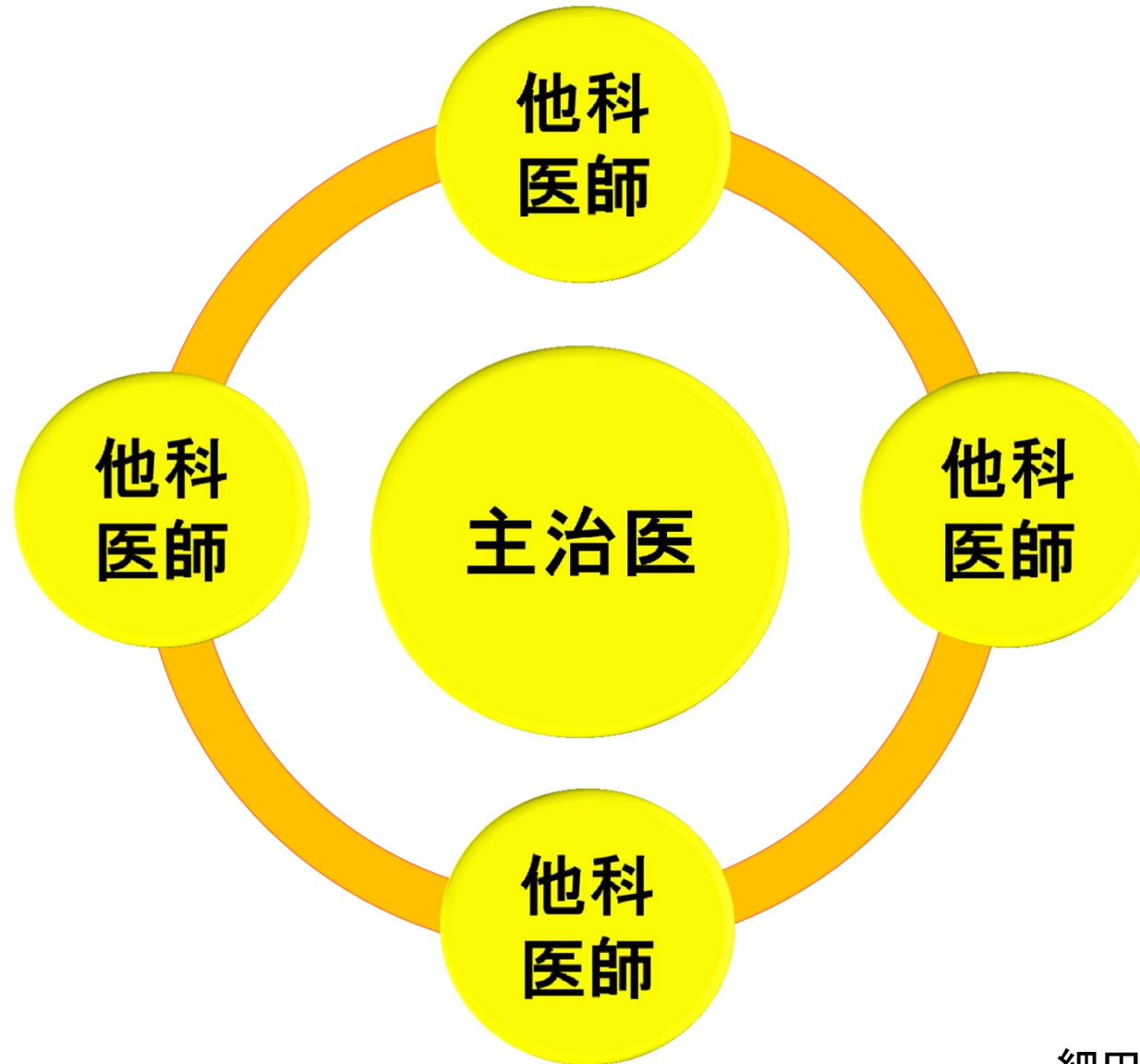
チーム医療の目的

患者自身が服薬も含め自己管理し、自身の健康を向上・維持できるようになること

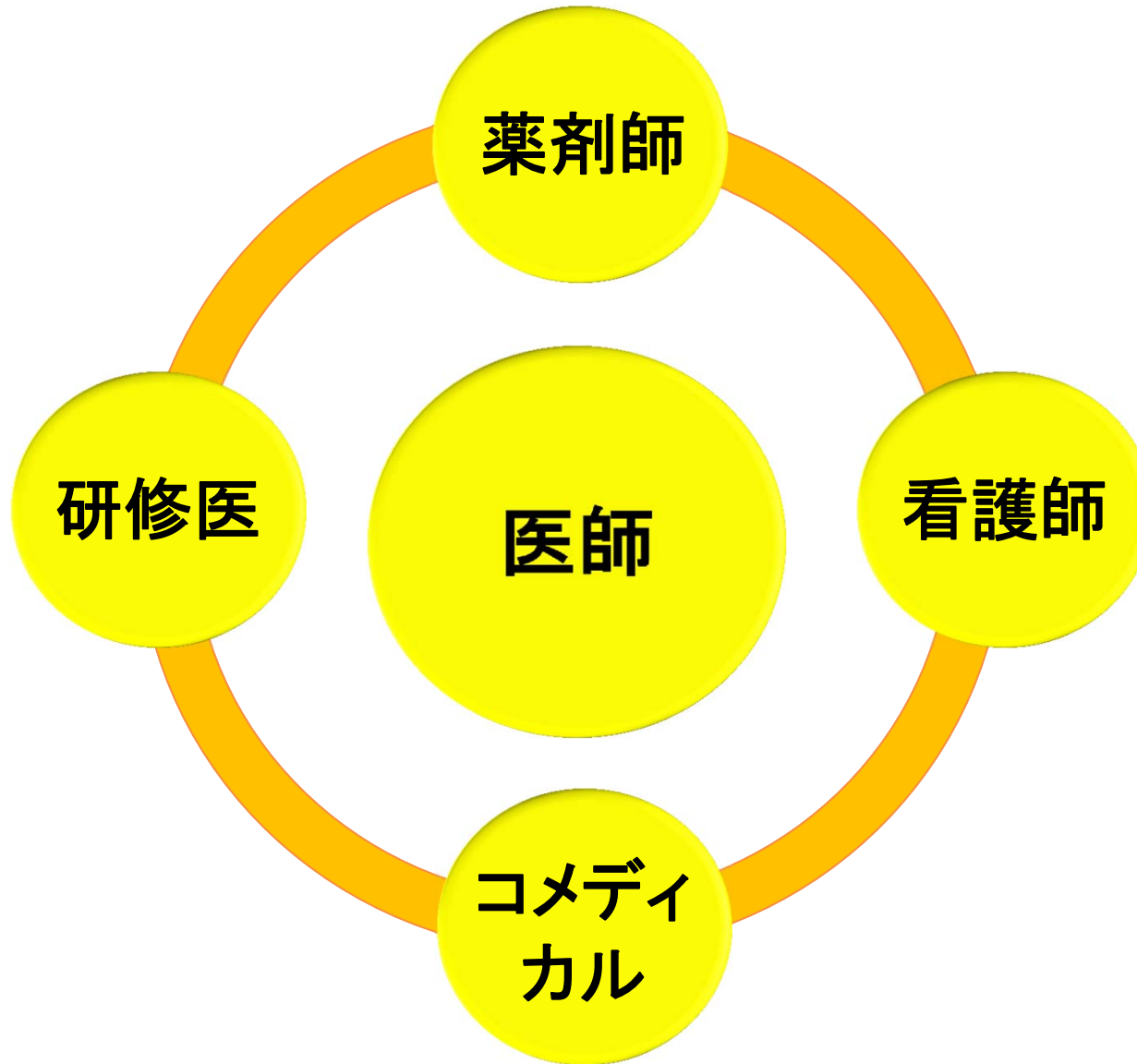


出典：HIV診療における外来チーム医療マニュアルより

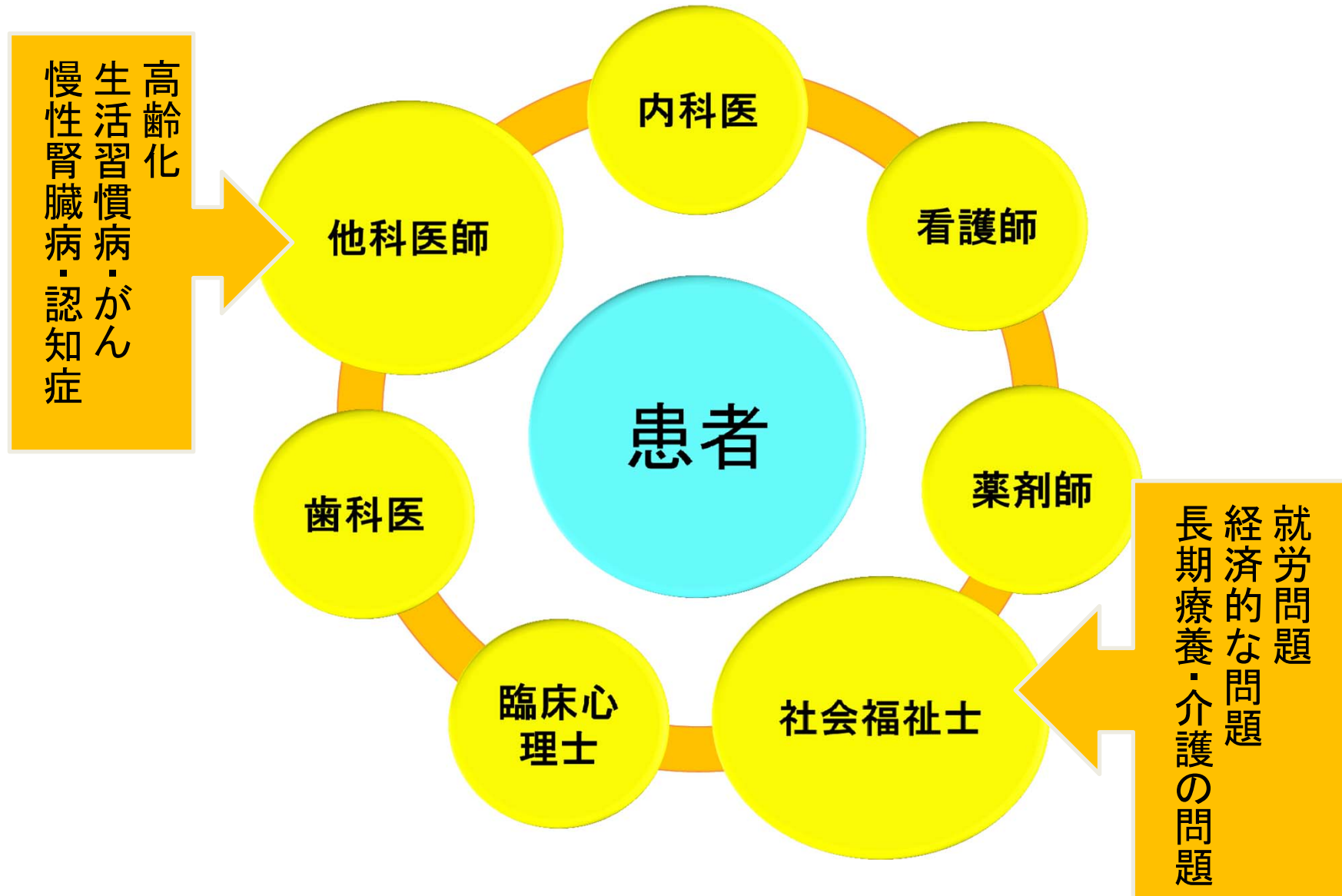
A型 主治医を中心としたチーム医療



B型 医師を中心としたチーム医療



C型 患者を中心としたチーム医療



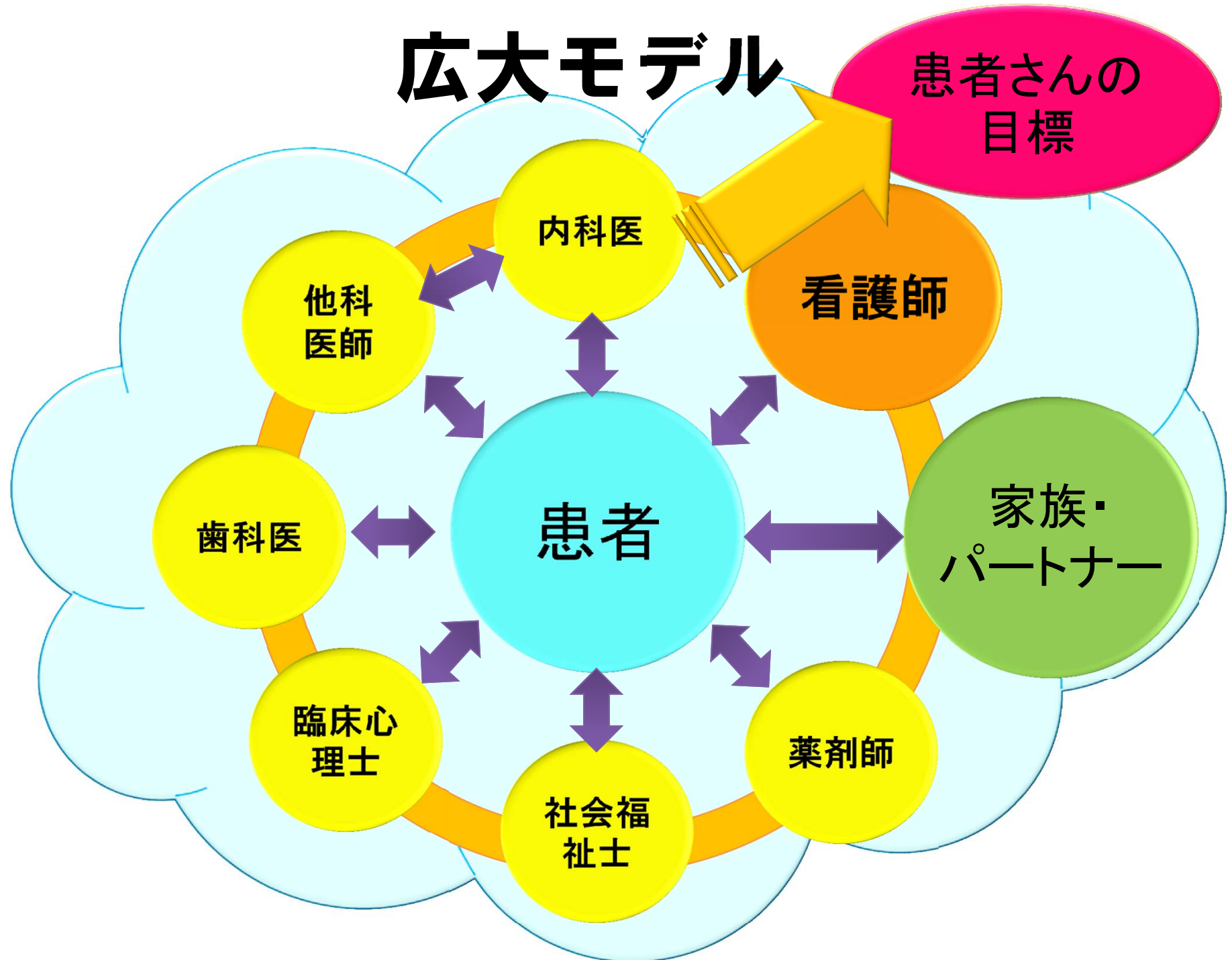
D型 患者・家族も参加するチーム医療



「チーム医療」

- 「チーム医療」の定義；多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつ互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること(チーム医療の推進に関する検討会報告書2010)
- 「チーム医療」を実践していくことは、異なる「知識」と「情報」を持つ者同士が、その「知識」と「情報」に基づいて自由にコミュニケーションし合う中で最適な医療を見つけていく営為(いとなみ)である。(細田/2012)

広大モデル



日々の診療を通して

- コーディネーターナースによる多職種⇔患者さんの橋渡しはとても大切。
- 職種どうしの日常的な交流の積み重ね
→絶えざる『対話』(コミュニケーション)を通しての情報共有が鍵である。
- 様々な困難症例に対する取り組みから得た経験を次の支援へと生かしていく姿勢を持つ。
- 理想像は存在するが、これが正しいという形はない。各施設のスタッフの配置数や診療レベルに応じて、できる範囲で最適なチーム医療を提供していくことが重要。